

寛永諸家譜

平氏十九冊之一
伊勢流

内閣文庫			
番號	和	20199	
冊數	186 (77)		
函號	特	76	1



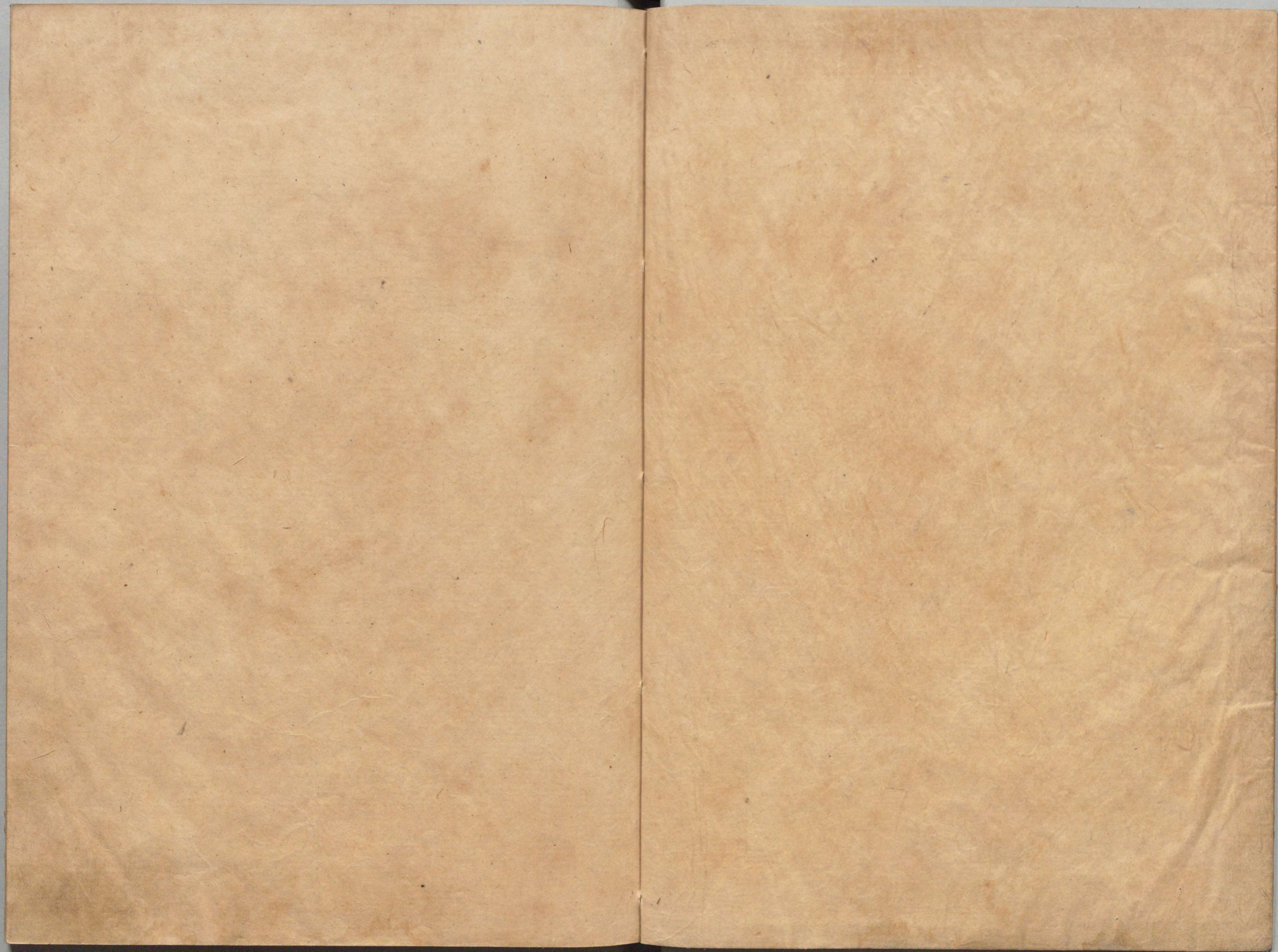
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007. TM. Kodak





伊勢

松原

寛永諸家系圖傳

平氏

伊勢流

伊勢

桓武天皇六代

貞盛

隆奥守

鎮守府將軍

五位下

小鳥丸實劔

長門入道

と孫領もまことと唐皮禮と不

淺草文庫

相じふ蝶とらうく級とも是
相入菱乃級とあらたあおじふ蝶此
級と用

維衡

常陸公 後田佐下

正度

越前守 後田佐下

正衡

出羽守 清盛此祖

季衡

下総守 正五佐上

貞衡

左衛門尉 松原此祖

盛光

盛行

右京少進

長御尉

五位下

盛長

長庫頭

四品大上

賴宗

侍從守

五位上

賴俊

長庫頭

四品大上

盛經

八郎

教經

肥前守

經久けいこう

因幡守いんぱんのかみ

盛久もりひさ

肥前守ひぜんのかみ

左衛門尉さゑもんゑ

八郎はちらう

盛秀もりひで

幸江守きんえのかみ

左衛門尉さゑもんゑ

右郎みぎらう

盛行もりゆき

左衛門尉さゑもんゑ

平江郎へいげらう

盛信もりのぶ

下総守しもづまのかみ

左衛門尉さゑもんゑ

平三へいさん

盛長もりなが

信濃守しんねうのかみ

左衛門尉さゑもんゑ

平九郎へいくわらう

頼継

彈正少弼

大津守尉

田原大守

法名照本

宗貞

九郎

大津守尉

法名道可

貞継

十郎

伊勢守

法名佐上

家傳一いよく建武元年為氏鎌
 倉より上洛乃とき貞継と命とく
 子息乃假此父母中なり且父貞氏乃
 諱の字成き多ふよしとよの義輝
 いきよりましく累代假乃父母とたれ
 六乃とき一庵法の大石と呼く清佐
 庵と稱せ貞継もよしとげ列小あり
 大坪道禪乃鎌倉の人なり融馬乃
 鞍とけくふ人呼く良工と稱せけ

とき貞継道禪より妙工と云く又
純鞍と云く廣禪寺 法名照禪
道号友峯

貞信

七郎 左衛門尉 伴勢守 法名五位
知光院 法名松洲道号常貞

貞冬

孫七郎 伴後守

貞行

十郎 兵庫助 尾張守 伴勢守
法名五位下 法名常誠

貞經

十郎 兵庫頭 伴勢守 法名五位下
貞經家督と貞國と云く
吉野と云く吉野と云く

法名勢元

貞長

七郎 左衛門尉 因幡守 口取大吏
津佐流乃列あり 伯と家乃鞍
乃工法と祖父貞信より法はふられ
より貞長鞍作工の正流となれ

貞直

七郎

左衛門尉

因幡守

貞仲

七郎

左京亮

因幡守

貞房

次郎

左衛門尉

下総守

貞孫

又七

左衛門尉

貞雅まさよし

五郎

後河守あごのり

貞誠まさまこと

左衛門尉

因幡守いんぱん

貞泰まさやす

左京亮さきやうりやう

因幡守

貞倍まさたけ

左京亮さきやうりやう

因幡守

貞久まさひさ

左衛門尉

貞種まさたけ

五七郎

貞常 まこと

与十郎

傳 つと

因幡 いんぱん

貞重 まこと

傳 つと

因幡 いんぱん

貞清 まこと

十郎

大進 おほしん

傳 つと

貞安 まこと

与市

大進 おほしん

上野 かみのの

貞祐 まこと

弥九郎

貞弘 まこと

与市

大進 おほしん

貞則

と市

左馬の尉

上野分

貞園

七郎 佑中守 伊勢守 後五位下

貞正 夢一 真如 孝子 孝子 孝子

得たり 孝子の 孝子の 孝子の

孝子の 孝子の 孝子の 孝子の

世乃 孝子の 孝子の 孝子の

六月 孝子の 十月 孝子の 十月 孝子の

孝子の 孝子の 孝子の 孝子の

常隆 深心院

貞知

十郎 左馬の尉 勘解由

丹波 仁木 庄と 孝子の 孝子の 孝子の

仁木 孝子の 孝子の 孝子の 孝子の

貞親 まこと

七郎 長庫ながくら以 内中守 伊勢守

後四位上

六乃とき 寮の御馬とありし系

法名 常安 道号 悦堂

貞宗 まこと

七郎 長庫ながくら以 伊勢守 後四位上

法名 常安 道号 金寶 金仙寺

貞藤 まこと

朝九郎

しめは 貞辰と号し 小州小條氏
養子と云ふ 是より 小條氏と云ふ

貞穰 まこと

又七郎 長庫ながくら以

貞隆

七郎 長庫頭 仔細馬 後四位上
法名常照 道号光岳 勝蓮院

貞遠

八郎 右京少進

貞助

与市郎 加賀守

貞知

七郎 左衛門尉 加賀守

貞俊

又七 左衛門尉

瑞春軒

相國寺 立如堂

貞仍

千松
幼少
物とけ
海の家と法ぎ小海山城と号
禁中法

貞忠

七郎
長庫頭
伊勢守
法名常隆
寶蓮院
法位上

貞運

又七
相剛小條氏親族乃小田原合我
討死と

貞明

長太史
小田原落城乃幼少此中と
秀吉とと

上洛也

貞孝

又之郎

長庫野

由中守

伊勢守

浪田佐下

梅竹院

貞孝

〜〜と好善次將軍義輝と

〜〜と忠と信と知と志と義輝

〜〜と義輝と貞孝

君と信と納と

信と忠と信と志と

信と忠と信と志と

上率と信と城州舟墨表

と信と好と一族と

討死也

貞良

小法師 十郎 長庫野 建光院

父貞孝と舟墨表と

貞為

虎福丸 長庫野

幼少より信長へ侍人病あはれと

りく退く浪陽へ居て其後

秀吉へ侍し老病とりくれ其

一祥へ去貞為むもあはれ

て秀吉の母へみや侍人へ大

上臈の列へ入泰内を侍りて

あつて御く同くと臈の列へ入る

みり人々も家とりくゆへ

進へし家内より事あつても實に

とひくとのく公家より侍て候の

親とも志し道をも貞為の女假親と

まうげとすかまら勅とりく位は

まむ

大坂没落して秀吉自殺のあはれ

しる

貞真

二郎

即心院

しづめハ貞為子ゆきと且病あり
信長貞真とりし貞為が名代とせ
世のち光秀信長と討さま山崎
ありてしづめとゆき討死と

貞真

雅樂助

先祖りて一家なり貞為と貞真より
令くあ家やなれ貞真家譜るまき
しづめゆきと貞為とをま事あり
ゆき志とゆき川と称すあれ貞真
貞為しづめゆき我もゆきより
伊勢氏なり称すゆきとゆき川とあり
あゆみと伊勢氏たり貞為とゆきと
ゆきと家たりしづめ貞真とゆき川と
ありとあゆみと伊勢氏と称す

貞之

九郎尉

早世まゝにいりて貞昌家督とす

貞昌

九郎

台部少輔

貞照

九郎

隼人正

大隅守

早世

貞照

九郎

隼人正

貞照薩摩中納言家久の末子あり
貞昌孝のく子也と家督とす

貞輝

九郎

兵庫守

いせけなうきく秀頼一はは大阪
没落のち

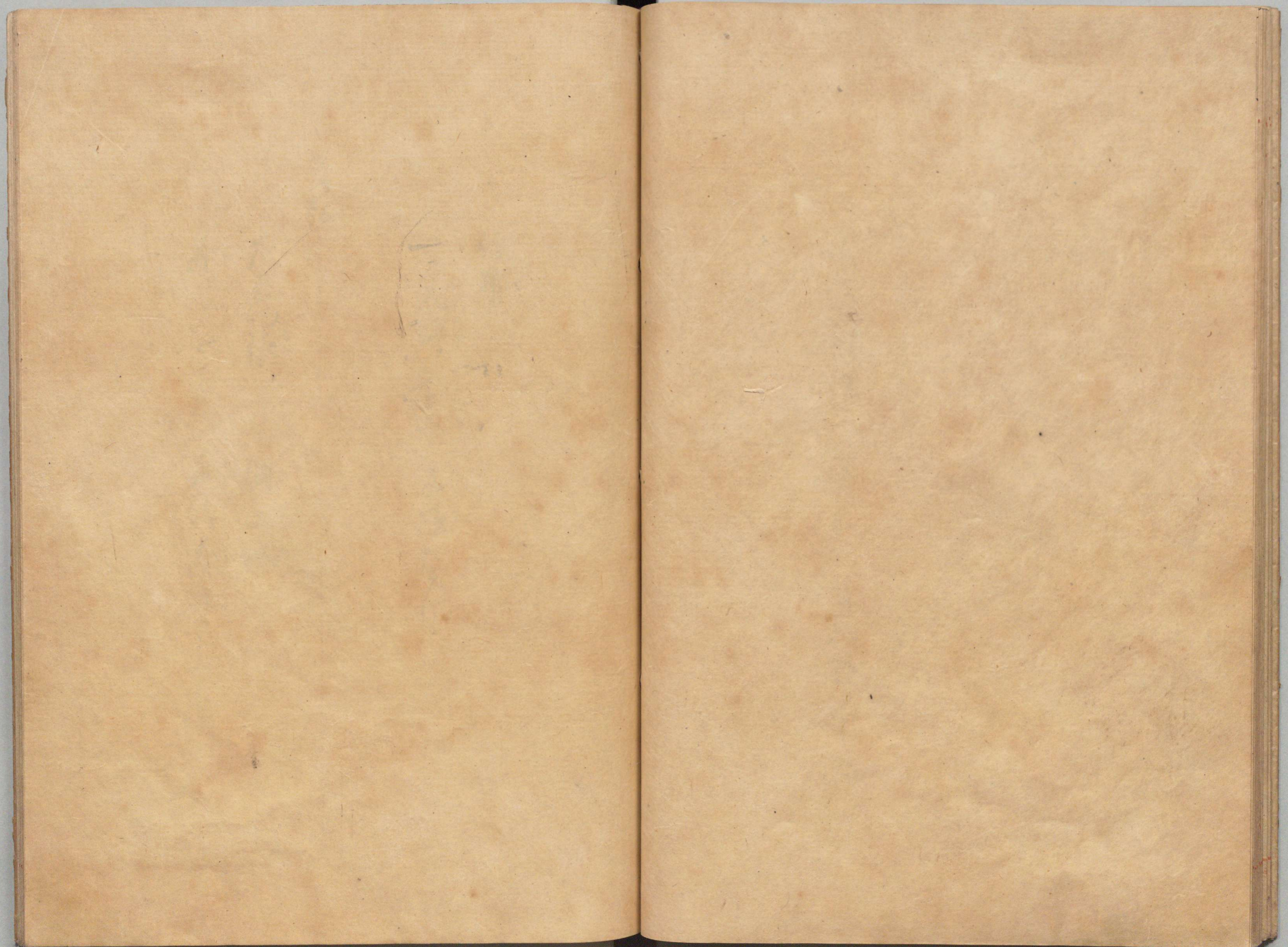
大権現一湯一くまう一京都
とひく宅地は存飲也

寛永十四年三月廿八日めさく

將軍家一一人きくまう

同十六年食福と寺毎小島丸乃
た刀いまにきく相法はふ

家乃級お入菱後向合此蝶一改



●
貞弘

右邊の依 生國山城
義澄とよひ義晴義輝
一法ふ

停勢

大坪入道が子孫なり

貞光

上野介

生國同家

義澄とよび義晴義輝とよび

法名夕可

貞末

大京亮

生國同家

義眼とよび法名妙の如也

大権現とよび法名とよび

享長七年三月廿一日四十九歳

とよび法名日實

貞晴

作十郎 生國下総

享長七年十一歳

大権現とよび法名とよび

同十五年

右院殿一侍人しんに續て
將軍家一侍人しんに續て
紀一屬一書院しんと侍とし

貞政

十右史 生國武苑

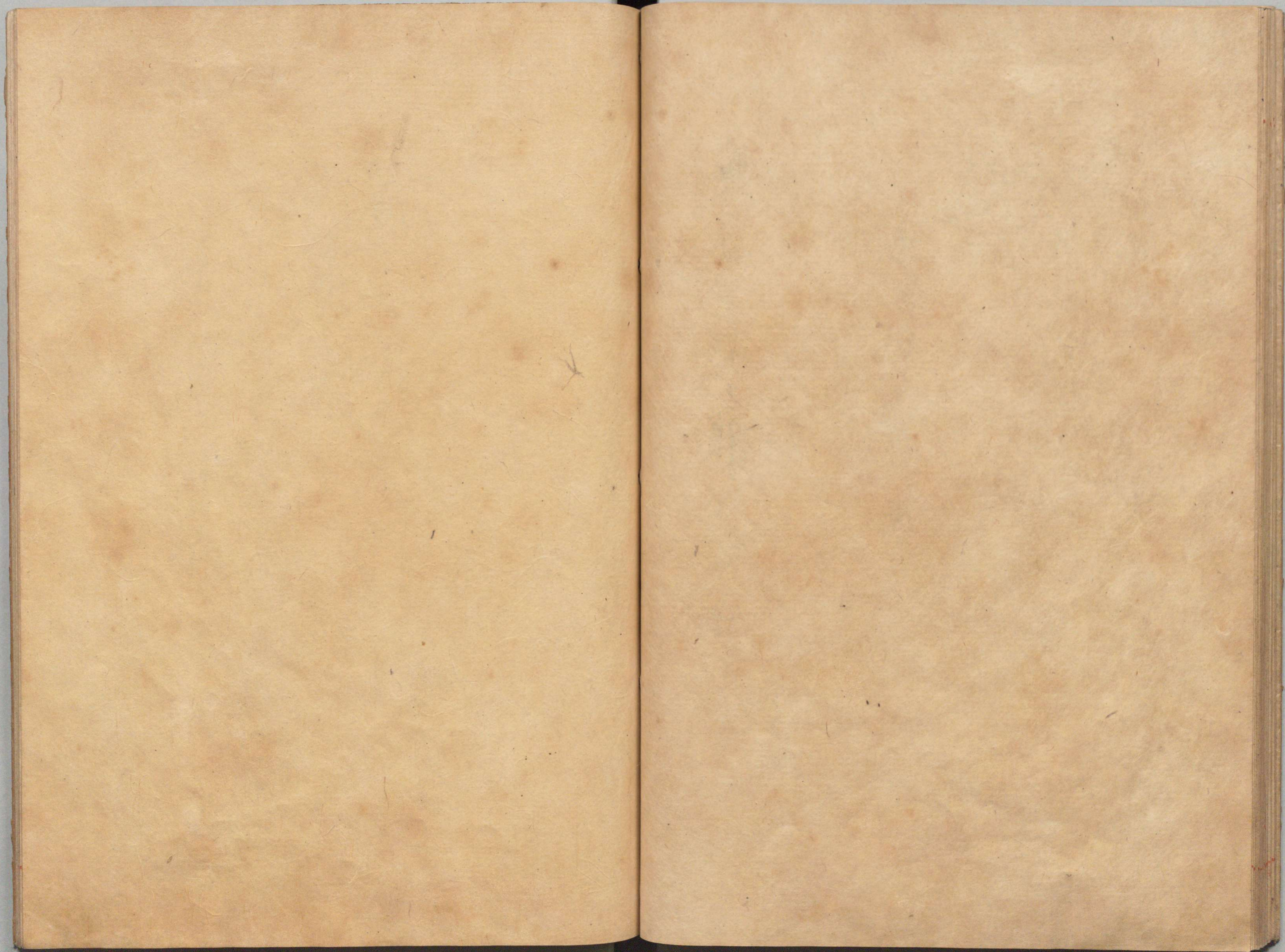
寛永八年より

將軍家一侍人しんに續て

同十七年松浦内苑しんに續て

小普請しん乃役しんと侍しん

家しん乃級しん二蝶しん乃團しん



松原まつばら

光平みつへい

伯耆守伯耆の守

よりめく松原と称すは備前府貞衛
より八代乃孫たり

貞平 まことひら

法五位下 ほつごいかげ

民部少輔 たみぶのせうぶ

恒清 つねひら

玄蕃乞 げんぱんぎ

六波羅右筆奉引 ろくはらうでしりょうぶさかひ

心光 こころひかり

三位房 さんゐらふ

明平 あきひら

兵庫頭 へいこづかみ

法名道徳 ほつなみちとく

政經 まさつね

兵庫頭 へいこづかみ

法名玄周 ほつなみげんしゅう

満盛 まんせい

兵庫頭 へいこづかみ

賢盛とら

七郎 伊賀守いげのしゅ 号なづも 哥人かたなり
法名宗伊しゅうい

長恒ながつね

安藝守あきのしゅ

孝盛たか

伊賀守いげのしゅ 法名宗源しゅうげん

時盛とき

兵衛べいゑ 兵衛べいゑ 助すけ
此間中このあひだ 終はつ

家利いえり

七郎 兵衛 生國尾張なまくにわ
祖父おやぢより尾剛おむねより伯おやぢと

家次

七郎左衛門尉 生國日前

元龜元年秀吉より遣入て家老と

なり播磨之本ノ城を領せ

天正十年秀吉山崎天王山を善清

とてしやうき家以奉領とて後

京都乃不司代となりとまはりごと

とせりおころふ河州坂本ノ城を領せ

女子

後坂本とありとありと丹波の福知

山ノ城を領せ

同十二年九月九日六十に歳中病死

法名淨信

七曲中号を淡野又右衛門の妻とて養ひ母

女子

あさひと号を松原道松の妻

家定

木下肥後守

女子

後一位政所 秀吉乃室高亮院と号す

長房

孫兵衛

江州浅井乃郡小谷一守幼少此
時父母一とあると浅野彈正少弼養子
となす

天正十四年十一歳少く秀吉一

流し指州西代鹿池とたす

十六歳少く後五位下小叙一

伯耆守一伊と豊後杵築乃城と

領も乃ら小杵築とあり

但州豊后乃城と領も二万石と

きぬひまここ之本乃城代こたし
寛永十八年書子と云こひく
戸一信也

翌年常州新治郡小栗庄木子石

とこしふそ思ももよのこねん

大坂あ夜乃法陣小酒升雅樂歌謡

属く信也

寛永六年二月冒江戸小とひ

六十六歳少く卒と法名道無

重長 ヒゲナガ

吉号集 生國武苑江戸母の浅野

弾正少弼うじよめ

寛永六年十四歳中く長房が家督

と信也と云るなり

同十七年十二月小治之位下叙

伯耆守一信也

長後ながごう

長子

早世はやせい

女子

小條こじょうおねの氏うぢ重むねの妻め

女子

船越ふねこし之の郎らう曰いは郎らう永景ながかげの妻め

女子

松平まつだいら伊賀いげ守まもる忠晴ただはるの妻め

女子

堀ほり義よし比ひ守まもる親昌ちかむねの妻め

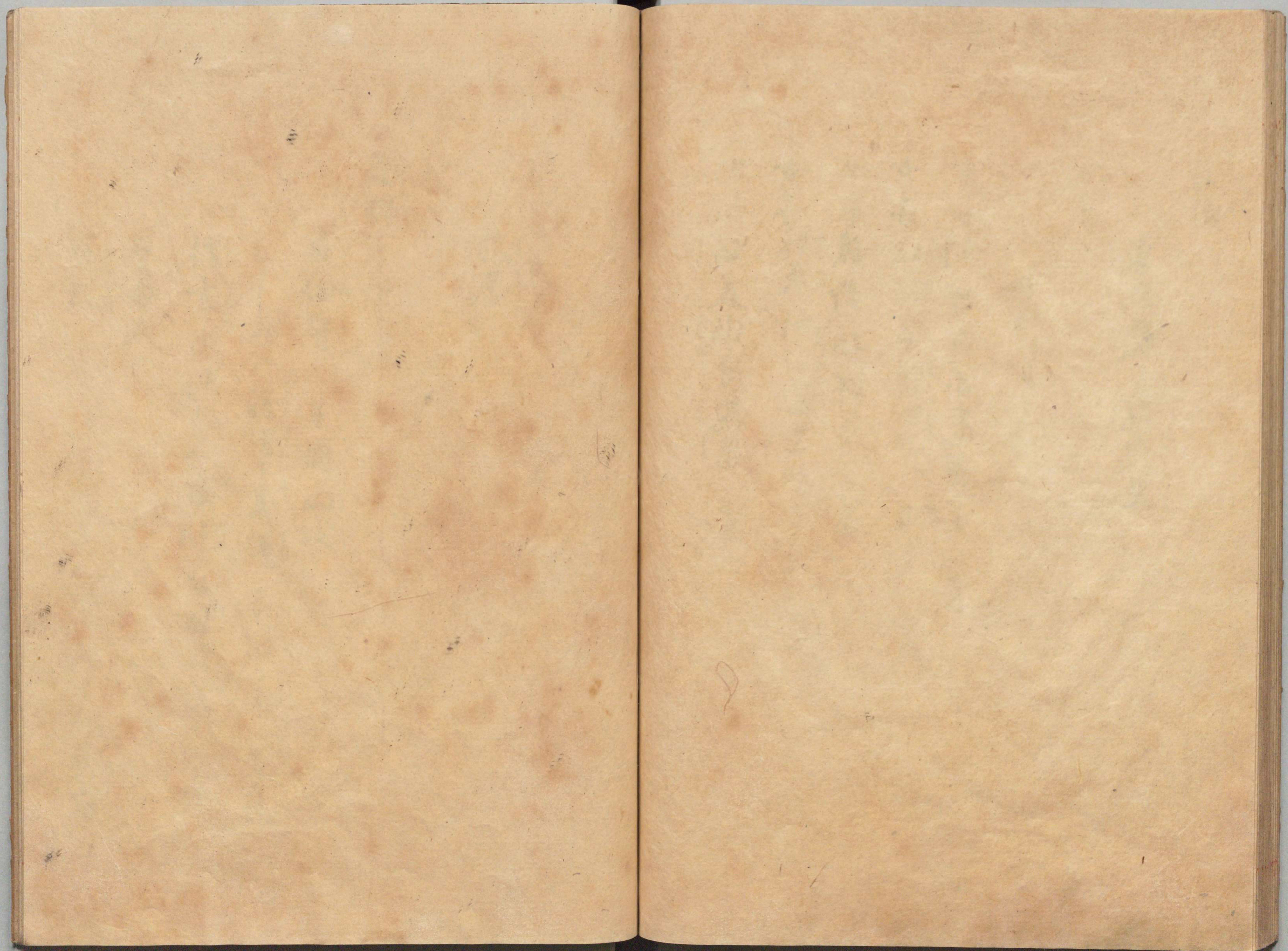
女子

浅野あさの祐津すけつ守まもるの妻め

女子

竹中たけなかつ左京亮さけいりやう重常むねつねの妻め

家いへ乃の級き菰こも比ひ丸まる



松原まつはら

● 直明なほあきら

日向守ひなたのり 生國山城なまのりやま

とらめハ將軍義輝しげてる 小治おぢ 後のち

信玄のぶ 小治おぢ 感懐かんわい 之これ 及およ 治ち 又また 叔母おぢい

をを 母はは

膳ぜん 料りょう 一ひと 法ほ 小こ 長なが 藤ふじ

合戦一討死七十九歳

昌正

修理亮 生國甲斐

信玄膳料一信玄御前あり

甲州没落のち

大権現小桑氏と相桃治ふとき信州

依久郡一とく軍功と勵る

よよりとく長八年のち

大権現一信玄御前あり

真田水陣乃とく

信玄院殿一信玄

寛永元年七十歳少く病死

忠明

平太夫の 生國信濃

信玄院殿一信玄御前あり大坂

あま水陣一信玄

景明

元和九年 約命小弓とて 後河
大納言忠長卿小治子
寛永十六年十一月十八日
將軍家より治人より

治部 生國甲斐

信玄及勝頼より治子甲州没落れ
のら 菅田右衛門依と心誠なるより

大権現より治人より忠節と

いし

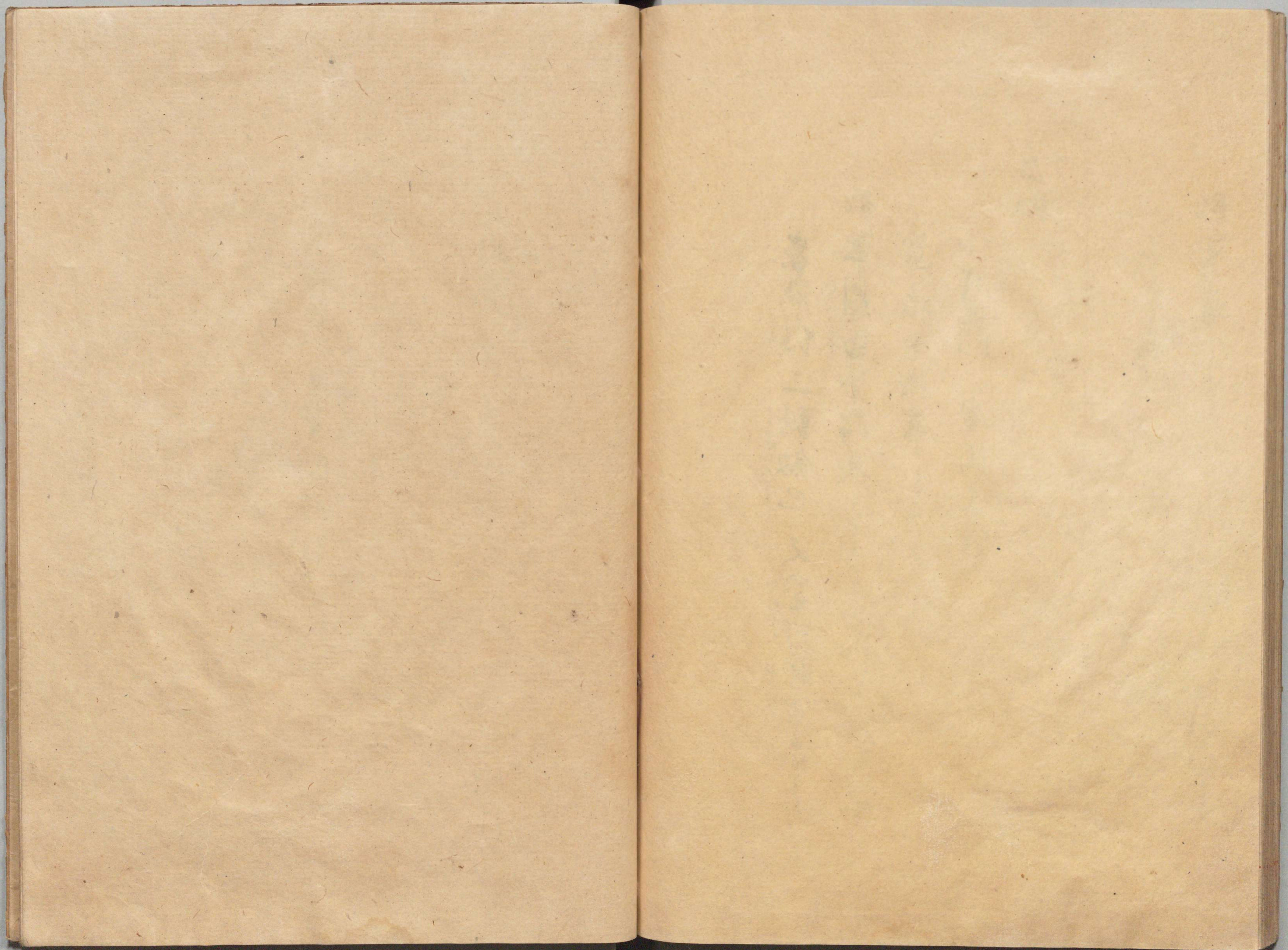
相木氏信剛依久郡高野町とせむ
りき 京町討死と之十二歳

昌明

小丸島 生國信濃

大権現とよひ

台澁院殿



享長十七年

右德院殿

家乃級
巴

● 梶

秋原あきはら

源七郎げんしちろう 生國なまくに美濃みの

長氏ながし

四郎しろう 長集ながしむ 生國なまくに 同どう 文禄ぶんろく 三年さんねん

と法と心

寛永九年より

將軍家一法と人きくまひは

同十年野州一とひく領地とく

きぬり

長可

山之郎 生國越前

実者高橋左門義重が子なり

寛永五年二月より

台酒院殿一法と人きくまひは

同九年より

將軍家一法と人きくまひは
院書院番

法と心

同十年下野一小きくまひは
領地とく

きぬり

家乃級森丸

